

「玉城次郎柿」 仕上がり良好

副町長に報告、P R J A 伊勢 部 会

【伊勢】JA伊勢玉城柿部会は10月下旬、玉城町役場を訪れ田間宏紀副町長に18日から始まった柿「次郎」の出荷を報告した。

下旬まで180ト出荷

当日は、同部会の浦田孝司部会長と奥川直人副部会長の他、同JA担当者、全農みえ担当者、県中央農業改良普及センター担当者ら6人が、田間副町長と

産地の抱える課題などを報告した。

浦田部会長は「本年度産は平年に比べ数量

が多い。大きな被害もなく質の良いおいしい柿に仕上がっている。玉城町と協力して、玉城次郎柿の良さを多くの人へ伝えていけるよう取り組んでいきたい」と話した。

同部会では、部会員78人の生産者が約25畝で柿「次郎」を栽培し

ている。同町の協力を得て後継者育成のために栽培講習会を開くなどし、産地を維持するための活動に力を入れている。また、選果基準を改めるなど、品質向上・生産量の安定化を図る。

「次郎」の出荷は11月下旬ごろまで続き、名古屋市場や県内市場へ昨年並みの約180トを出荷する見込みだ。



報告後の田間副町長㊦と浦田部会長㊧と奥川副部会長